

これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第1回） 概要

1 教育委員会事務局

- 第3次長野県教育振興基本計画「施策」ごとの県の主な取組
- 長野県が目指す学びの改革-「探究」を中核にした新たな学校づくり-(内堀高校改革推進役)
 - ・目指す学びの姿「探究」「探究的な学び」
 - ・目指す学校の姿「生徒が、学ぶことそのものに喜びを感じ、学校生活に喜びを感じる」
「生徒が、自分の学び、自分の人生、学校づくり、社会変革の当事者になる」
 - ・最上位の目的「個人と社会の well-being の達成」
- 氷山モデルイメージ図、学力・不登校に係る数値の経年変化
 - ・それぞれの局面で起こる問題への対処療法的な対策や課題把握の限界

2 有識者意見要旨

(1) 複雑化・多様化する教育課題の背景

- 子どもの姿
 - ・生徒の自己肯定感の低さ。**過度の同調性・画一性に苦しむ。**
 - ・**家庭環境の複雑化**（経済的困窮、家庭教育力の低下等）。
- 教育現場
 - ・**教員の多忙化、長時間勤務による疲弊**（コロナウイルス感染症、ICT教育への対応等）。
 - ・教員採用倍率の低下、教員不足。
 - ・児童・生徒の「なぜ?」「どうして?」に気付けないことがある。
- 社会・経済情勢
 - ・**高齢者の経験（古い価値観）が、若者たちの成長（主体性・創造性）を阻害。**
 - ・学校と民間企業・地域等の関係機関との協働（連携）がさらに必要。

(2) 探究を中核にした新たな学校づくり

- 探究力について
 - ・**探究を新たな教育振興基本計画のコンセプトの中心（基本理念）に据えたらどうか。**
 - ・学習者目線の基本理念が重要。県民が、イメージを共有できる内容を示してほしい。
- 探究学習を進めていくにあたって
 - ・**教員が探究学習を経験していないため、教育課程の作り直しや実践がうまくいかない。**
 - ・多様な子どもたちに個別最適化された学習環境をマッチングしていかなければならない。
（クラスサイズ、地域リソースの活用等）
 - ・**教員の負担軽減、採用後の研修機会の充実が必要。**
 - ・**学校を再定義・再構築しなければならない。教員の意識改革も必要。**

(3) その他

- ・理想像を過度に想定してしまうと、新たな取り組みが進んでいかない。
- ・日本と海外の高校生の意識を比較したデータも提示してほしい。